

「すべては神の手の中にある」

～悲しみよ、ありがとう！～

「だから私がおまえに手を置いて祈ったとき、神に与えられた贈り物を忘れないようにと言ったんだ。もっと使って種火が炎になるがごとく成長させるんだ。なぜなら、神が与えてくれた神の霊(ホーリスピリット)は、恐れをはねのけ、知恵と力をみなぎらせ、人を愛し、喜んで人と共に歩ませてくれる。だから、人前でこの我らが王・イエスについて語るのをためらったり、神のために牢獄につながれている私のことを、恥じたりするな。それどころか、この苦しみの中をも共に進もう。神は、苦しみの真っ只中であっても、力を与えてくれるのだから。」第二テモテ1:6-8[アライブ訳]

この第二テモテはパウロが最後に書いた手紙としても知られている。約二か月後に暴君ネロ皇帝によって斬首させられた(AD67年頃)。死の直前に苦しい牢獄から自身の最愛の弟子テモテに書き送った手紙の冒頭の一部です。

テモテは情熱があり、純粋な信仰をもっていましたが、その一方で気が弱く、神経が細やかだった。だからすぐにストレスにやられてしまっていた。そんなテモテに、「恐れずに、大胆でありなさい！」と励ましました。私たちは信仰者として生きる時に人目を気にしすぎて、いつの間にか自分の信仰の火が小さくなってしまいます。その小さな火を大きくするために必要なのは、大胆にチャレンジして、その火を用いることです。

私たちは人々を愛そうとしますが、その私たちの愛を受け取ってもらえないと落ち込んでしまいます。また傷ついたりします。そうすると、もう傷つきたくないの、積極的にその人を愛することができなくなることがあります。そして、そのままになってしまうと、ますます愛することができなくなってしまいます。賜物がさび付いてしまうのです。しかし、そうならないためにも私たちはあきらめずに、果敢に、挑戦していかなければなりません。

しかし、やたらと頑張れば良いものではありません。そのためには秘策があるのです。このテモテ書には、もう一つのキーワードがあります。それは「聖霊様」です。その賜物は私たちの力ではなく、聖霊様のお力です。私たちの根性や頑張りでその人を愛することはできません。それはきちんと悟らなければなりません。そうではなく、私たち信じる者たちと共において働いてくださるお方のことをよく知らなければなりません。このお方にもっとも働いていただかなければなりません。そして、このお方は恵みとして私たちに与えられているお方でもあります。ですから、いつも感謝の心を持って主にお仕えしていかなければなりません。そうするならば、主が豊かに私たちを通して働いてくださるでしょう！キーワードは「感謝の心」です。

「悲しみよ」 水野源三

悲しみよ、悲しみよ、本当にありがとう。

お前が来なかったら、つよくなかったなら、私は今どうなったか。

悲しみよ、悲しみよ、お前が私をこの世にはない、大きな喜びが、

かわらない平安がある、主イエス様のみもとに、つれて来てくれたのだ。

病を通してイエス様に会った水野源三さん。その絶対的な信頼の中で、人生の悲しみ、辛さをも「感謝の心」で神の恵みとして受け止めている彼の信仰の強さを感じます。